

令和2(2020)年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1)目指す 学校像		○「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが“自信と誇り”をもち、地域に貢献し地域から信頼される学校
(2)	育みたい 生徒像	○学びに向かう力を育み、成果をあげる体験を重ねることで自己肯定感・自己有用感を高め、新しい時代を生き抜く力を持っている。 ○制服や頭髮など高校生としてふさわしい身だしなみを整えている。 ○他の生徒の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。 ○地域の一員として積極的に活動することで、地域から信頼を得ている。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像の実現に向け、「チームあけぼの」の一員として自校の存在価値を高めている。 ○授業を大切にして学力向上を図るとともに、生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようとしている。 ○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。 ○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともにより魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

2 現状認識

(1)学校の価値を 提供する相手と そこからの要求・ 期待	<生徒> ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活 <保護者> ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上、進路実現 <中学校> ○中学校に対する理解、多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現 <地域社会> ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校の情報提供、地域の担い手育成 ○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成	
(2)連携する相手と 連携する うえでの 要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <保護者> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現 <中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供 <地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供 開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上	連携する相手への要望・期待 <保護者> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言 <中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養 基礎学力の定着 目的意識の向上 <地域社会> 地域の子どもの本校へ入学希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力

(3)前年度の学校関係者評価等		○成果発表会の生徒の姿を見ていると挨拶や聞く態度など非常によく、この状態を続けられるようにしてほしい。 ○地域との連携については非常によく頑張っており、地域からの信頼も厚い。このことは本校の強みだと感じるので今後も大事にしていきたい。 ○身だしなみについては、以前と比較すると改善されていると感じるが、周りからの期待がさらに高まっているのではと思われる。
(4)現状と課題	教育活動	○学習に対する意識を高めるために、イエローカード等で出席状況や提出物について粘り強く指導すること続ける。 ○身だしなみ指導については、特定の違反者に特別指導を行うなど指導の徹底を図る。遅刻数のクラス目標を設定することで遅刻を抑制し、数の多い生徒に対するペナルティを徹底するなど遅刻の減少に取り組む。 ○授業やホームルームでの粘り強いアナウンスや進路実現につながる資格の紹介など、資格取得に向けて意識を高める取組を学校全体で行う。 ○人権だより「ことだま」を通して、自他の人権を大切にすることを意識を高めるとともに、HRC風の広報活動を行う。全校生徒対象に「インターネット(SNS)と人権」等の講演会を引き続き実施する。
	学校運営等	○基礎学力の定着や学びに向かう力の育成、外国にルーツのある生徒に対しての日本語指導などが喫緊の課題である。学校全体でカリキュラムマネジメントを行い、対応を検討して進める。 ○本校の今後のあり方について、中学生の進学希望調査では定員をオーバーしている現状はあるが、本校に求められていることをリサーチして、ニーズに合った改善、改革について協議し、取組を進める。 ○教職員の働き方改革として、業務の見える化や効率化を図り、連携協力ができる体制づくりを早急に進める。 ○学校の現状と課題の共有化を図り、全員でその課題に向かう意識の醸成と組織の改革に取り組む。

3 中長期的な重点目標

教育活動	○基本的生活習慣の確立や部活動・資格取得等への積極的なチャレンジを促し、基礎学力やコミュニケーション能力を向上させ、生徒一人ひとりの学校生活の充実と希望進路の実現を図る。
学校運営等	○地域連携の取り組みや情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。 ○学校行事・分掌業務・部活動指導等について、精選や見直しを行うとともに、同僚性を発揮し、協力・協働して取り組む体制を確立することで、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるようにする。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果
学習指導	◇生徒の実態に即した学習指導の工夫と基礎学力の向上を図る。	
	【活動指標】 ○授業公開及びテスト前補習を年2回実施 ○イエローカードの効果的な活用(欠課5分の1	【活動】 ○授業公開は実施できなかった。テスト前補習は3回実施した。

	超、成績不振、課題未提出などがある場合、教科担任が発行）（※） ○生徒や教員に授業に関するアンケートを年 2 回実施（◎） 【成果指標】 ①「基礎力診断テストの学習評価ゾーンⅠランクアップ」の生徒30%以上 ②「レッドカード（不認定・未履修）」前年比減（R1:20） ③「学習指導に概ね満足」生徒 80%以上	○イエローカードは欠席過多、成績不振生徒への指導に活用できたが、数を多く発行しても危機感がない生徒がいる。 ○授業公開ができず授業に関する外部アンケートは実施できなかった。個別に授業アンケートを実施した教員もいたが、学校全体での取組には至らなかった。 【成果】 ①Ⅰランクアップした生徒の割合：Ⅰ年次32%、Ⅱ年次37%、Ⅲ年次33% ②レッドカード：16（2月末現在）欠席による未履修増 ③学校経営数値：73.8% 昨年度比 6.3%減。
生徒指導	◇高校生としての身だしなみを整え、基本的生活習慣を確立するために粘り強く取り組む。 【活動指標】 ○全教員による日常的な身だしなみ指導の実施（※） ○全教員による登校指導、休憩時間の校内巡視の実施（※） ○特定の違反者への特別指導の実施 【成果指標】 ①頭髪服装違反が前年比減（R1:890） ②朝の遅刻が前年比減（R1:881）	【活動】 ○全教員が協力して身だしなみ指導、登校指導、校内巡視に当たることができた。登校指導を中心としてSHRなどで継続的な指導を行った。 ○特別指導は発生していない。 【成果】 ①Ⅰ月末で514（前年度800）36%減 ②Ⅰ月末で658（前年度795）17%減
安心・安全な学校	◇心身の健康と自他ともに大切にしている態度の育成を図り、安心・安全な学校作りを進める。 【活動指標】 ○毎週の保健委員会での情報共有と教育相談、支援体制の構築（※） ○命を考える講演会の実施 ○学校生活やいじめ等に関するアンケートを年 3 回実施（◎） 【成果指標】 ①「安心・安全な学校である」生徒 90%以上 ②「心身の健康指導、教育相談に概ね満足」生徒 80%以上	【活動】 ○毎週水曜日に保健委員会を実施し、年次をまたぐ情報共有ができ、大変有用であった。また、組織として生徒支援する体制が構築された。 ○Ⅰ、Ⅱ年次で林みちこ先生による性教育講演会を実施した。 ○アンケートは計画通り実施した。 【成果】 ①学校経営数値：82.3% 昨年度比 2.4%増 人権アンケート「安心して生活できている」89.9% ②学校経営数値：78.9% 昨年度比 4.8%減
キャリア教育・進路指導の充実	◇自己の生き方を主体的に考え、資格取得や部活動に意欲的に取り組み、自己肯定感を高め、社会に貢献できる人材の育成と希望進路の実現を目指す。 【活動指標】 ○「産業社会と人間」「総合研究」や LHR 等におけるキャリアガイダンスの実施、地域学習、フィールドワーク、インターンシップの充実（◎） ○「IGABITO 育成事業」でのシチズンシップ教育の実施 ○資格取得や部活動の推奨（※）	【活動】 ○Ⅰ年次フィールドワーク、伊賀について学ぶ事前学習、家庭基礎での「伊賀組紐」、製菓調理系列での「地域の食材をつかったスープの開発」「地域の大豆を使ったみそ造り」、健康福祉系列で「忍にん体操」普及の取組などを実施した。 ○Ⅰ年次で多文化共生のワークショップを実施した。

	○卒業生による進路講話の実施 ○個人面談・ガイダンス面談を年 2 回以上実施、3 年次面接指導の充実 【成果指標】 ①「自己のキャリア育成に前向きに取り組む」生徒 80%以上 ②「地域社会の一員としての自覚を持つ」生徒 80%以上 ③資格試験、検定試験の受験者 (R1:186)、部活動加入率 (R1:93.1%) が前年比増 ④「希望進路が実現した」生徒 100%	○コロナ禍で卒業生の進路講話は実施できなかった。 ○面談は予定通り実施した。3年次面接指導は各教員が工夫して実施した。 【成果】 ①「地元企業への理解が高くなった」79% ②「地域への関心が高くなった」89% ③各種検定の受験者延べ252人 昨年度比大幅増 部活動加入率88.6% 前年比減 ④希望進路 98%達成 (2月末) ※2名結果待ち
人権教育の充実	◇様々な人権問題に関心を持ち、人権意識を高め、主体的に行動できる人材の育成を図る。	
	【活動指標】 ○人権だより「ことだま」の発行、HRC 風への参加 (※) ○3 年間を見通した人権LHRを各年次 3 回実施 (◎) ○生徒の実態を踏まえた人権講演会の実施 【成果指標】 ①「人権に対する理解を深め、人権尊重の行動へつなげる」生徒 90%以上	【活動】 ○ことだま発行 5 号、HRC 風参加 13 回、風フィールドワーク参加 2 回 ○各年次計画に従い3回実施 ○生徒対象人権講演会は実施できなかった。教員対象は実施した。 【成果】 ①人権に対する意識アンケート結果では 90%
改善課題		
○全体としては、コロナ禍での教育活動の遅れや活動の制限などがあり、その影響は大きかった。今後は、ICT を活用した教育の在り方や感染防止と活動の両立を図る新しい手法を研究するなどの必要がある。 ○デジタル教材の活用や繰り返し行う学び直し学習などを含めた授業改善に取り組み、基礎学力の向上を図ることが喫緊の課題である。 ○身だしなみや遅刻の改善は見られたが、次のステップとして、生徒に寄り添った指導、生徒が自発的に行うようにしていく指導を考える必要がある。 ○地域学習については、2年目となり成果が表れているが、地域の課題解決に向けた取組には至っていない。		

(2) 学校運営等

「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果
情報発信 地域連携	◇地域への情報発信と交流を進め、地域とともに歩む学校として活性化を図る。	
	【活動指標】 ○地域への情報発信 年 10 回以上 (※) ○地域との交流・連携事業 年 10 回以上 (※) (◎) ○学校ホームページの更新 月 1 回以上 (※) 【成果指標】 ①地域、小中学校で、「本校教育活動への理解が増加」 80%以上	【活動】 ○コロナ禍ではあったが、リモートや動画などを通して情報発信した。「忍にん体操」を NHK「あさイチ」で取り上げられた。 ○みえむ未来創造フォーラム「学校と地域連携」で組紐、忍にん体操の取組を発表、展示するなど情報発信した。 ○地元教育会館で、美術、書道、工芸品の展示を行った。 ○美容の新商品を開発し、アルコールジェルは地域の小中保などに提供した。商品紹介の動画を作成してHPで情報発信した。 ○出前授業、交流授業はすべて中止した。また、成果発表会

		は一般への公開は中止した。 ○月 1 回以上の更新はできなかったが、学校紹介動画を HP で公開するなどした。 【成果】 ①コロナ禍で交流事業が中止となし、地域アンケートも実施できなかった。
教 職 員 の 資 質 向 上	◇教職員は、日頃から自己研鑽に励み、学校の課題解決に向けて他の教職員と協力・協働して取り組む。 また、すべての教職員に法令遵守の意識の醸成を図る。	
	【活動指標】 ○教職員の校外研修への参加年 1 回以上(※) ○校内研修会、情報交換会の実施(◎) ○コンプライアンスアンケート、コンプライアンスミーティングの実施 【成果指標】 ①「法令遵守の意識が向上した」教員 100%	【活動】 ○校外研修はほとんどが中止となったが、ネットでの研修を含め、年 1 回以上の研修参加は達成した。 ○外部講師による人権研修やアンガーマネジメント研修などの研修を行い、事後の振り返りを充実させた。 ○職員会議やデスクネッツ等において不適切な事例や規律違反の事例等の情報を伝え注意喚起した。 ○自己の言動を振り返る機会を持った。 【成果】 ①期末面談等での聞き取りで、各々の意識が高まっていることを確認した。。
組 織 運 営 働 き 方 改 革	◇各分掌の業務の見直し、削減に取り組み、教職員のワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進し、総勤務時間の縮減に取り組む。	
	【活動指標】 ○各分掌の業務の洗い出しと分担の見直し(※) ○定時退校日を月 1 回設定、実施率 95% (R1:85%) (※) (◎) ○部活動の休養日を週 1 回設定、実施率 100% (R1:100%) (※) ○放課後に開催する定例会議は 60 分以内設定、実施率 100% (R1:95%) 【成果指標】 ①年休取得日数、一人 16 日以上／年 (R1:15 日) ②月 45 時間超、年間 360 時間超の時間外労働者 0 人 (◎) (R1:2 人)	【活動】 ○人権・教務において、業務分担表を作成し、取り組むことができた。生徒手帳を廃止してデータ化するなど業務を見なおした。 ○定時退校日 実施率 100%、部活動休養日 実施率 100%、定例会議時間内 実施率 95% 【成果】 ①R2:年休取得 10.43 日(1 月末現在) ②時間外労働月 45 時間超 1 人、年間 360 時間超 0 人(1 月末)
改善課題		
○地域アンケートの実施方法について、対象や回答方法等、検討する必要がある。 ○教員の業務量は増加傾向が続いている。各分掌の業務について、洗い出しと分担を年度ごとに進め、必要以上の業務は削減するなどスリム化を図らなければならない。 ○ICT が急速に導入されたことで戸惑う教員も多い。ICT を活用して何をどうやるのかを明確にすることが重要である ○学校や生徒の様子をタイムリーに知ってもらうための情報発信の方法を検討する必要がある。		

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

〔学習指導〕

○わかりやすい授業を心がけ、各教員は努力していると感じられる。イエローカードの効果を疑問視する考えもあろうかと思われるが、生徒は先生方の熱意を感じているはずである。生徒にとって、自分に関心を持ってくれている感覚は「見えにくい」効果となって現れてくるものである。

○本年度はリモート授業を実施せざるを得なくなるなど、これまでの授業形態と異なるスタイルが登場した。したがって、生徒の評価はイレギュラー的なものとして捉えた方がよいと思われるので、「学習指導満足度」の73.8%は「良好」と判断できると考える。したがって、これまでの取り組みの継続でよいと考える。

〔生徒指導〕

○多くの時間を使って対応している。ただ、生徒を「操作の対象」として、できないことをできるようにさせようとするれば反発も生じる。生徒に、現状でよいのか考える時間を持たせ、自分のやっている「おかしさ」に気づかせるようにしていきたい。取り組みについては、これまでと同様でよいと思う。

〔安心・安全な学校〕

○アンケートや面談を数多く取り入れている。その中で、見えにくい「心のつまずき」などを拾い上げようとしている。性教育に関しては、外部講師を招き実施しているが、一番身近にいる「先生」が「性」について語るのもよいと思われる。

〔キャリア教育〕

○いわゆる「生き方教育」であるので、学校を支えている地域を知ること、自己の役割に気づかせるようにしていきたい。進路に関しては、こまめに対話をしており、生徒に寄り添った対応が取られている。次年度の取り組みは、継続でよいと思われる。

〔人権教育〕

○新型コロナウイルスの影響で未実施のものが、成果及び課題の検討は妥当性を欠くと思われる。

〔情報発信・地域連携〕

○リモートによる発信などの課題が見えてきたが、できる範囲での取り組みをする必要性を共有できたと思う。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

○教育活動の質の向上に取り組む。各教員が研修（研究）課題を掲げ、それに取り組むことで質の向上を図る。たとえば、学習指導ではICTの活用、指導と評価の一体化、学びに向かう力や自主的な学びに繋がる授業改善等、生徒指導ではコーチングやカウンセリングの手法、キャリア教育では「探究」的な学習の進め方、プレゼン能力の向上等がある。

○次年度入学生に導入する一人一台タブレットを活用した教育活動を進める。

学校運営についての改善策

○地域課題解決型キャリア教育モデル事業の最終年となる次年度は、生徒一人ひとりが地域の課題解決に取り組み、地域との交流を通して成長する生徒の姿がみられるよう活動を充実させる。

○教務部総務係を創設することで教務部の業務分担を行い、特定の教員に負担がかからないようにする。

○定時退校、部活動休養日の完全実施を目指す他、精神的にゆとりが持てるよう、職員室の机の配置やリラクセスできる空間を設けるなどの工夫をする。定時退校日以外でも定時で退校するよう働きかけるなど職場全体の意識改革を進めていく。

○分掌においてICTの活用を進め、ペーパーレス化、情報のデジタル化・共有化を図り、業務の効率化に取り組む。

○学校や生徒の活動の様子を動画やSNSなどを活用して発信することで学校のPRを図る。